各プロジェクト校の取組

福山市立鞆の浦学園

授業の計画

こどもの実態

〇互いに認め合い、学び合うこどもが多い。
△こどもが自ら学ぶ目的をもち、粘り強くやりきる力が育っていない。

目指す授業づくり

・こどもが主体的に学ぶ目的や意欲をもち、達成感や満足感のある授業づくり
①多様な学びの選択肢と自己決定できる場を取り入れた授業　②ポジティブ行動支援を取り入れた授業

アセスメント

実態把握から支援策を考える　①実態（困っていること・好き・得意）②要因・背景（こどもの気持ちを想像）
③つまずき（課題の具体化）④支援策（できるだけたくさん考える）⑤実際にする支援を選択

導入

単元計画・授業の見通しの工夫

・何のために学ぶのか（単元を貫く問い・ゴール）をこどもと共有
・単元計画の提示（掲示・スプレッドシートなどを活用）
・本時の課題や学習のねらい（めあて）の焦点化
・授業の何をどのように学ぶのか１時間の流れをこどもと共有・可視化
（ICT・ホワイトボードの活用など）
・時間、場所、人、方法、仮説などの見通し

学習意欲を高める工夫

・こどもが学ぶ目的や意欲をもち、興味喚起の工夫
・教材や題材の出会い方、発問を工夫
・前時までのよい学び方やふり返りを共有し、自分事として捉える
・こどもが見通しをもって主体的に学習を進めることを促進
・こどもに課題や疑問をもたせる

展開

個別最適な学び

・学びの環境づくり
（学習コーナー、ヒントカード、具体物、資料、ミッション、チャレンジなど）
・多様な学びの選択肢とこどもが自己決定できる場の設定
→支援（ヒント）・難度（発展）・進度・形態・ノートorタブレットなど

一体的な充実

協働的な学び

・精選した発問（思考を広げる・深める）
・教師がこども・教材をつなぐファシリテート
・クラウドを活用した授業展開
→スプレッドシート、スライドなどを活用した
「白紙共有」「途中参照」「他者参照」

見取りとフィードバック

・教科の見方・考え方を働かせているこどもの姿を見取る
・こども一人ひとりの学習進度や学習到達度等、つまずきの把握（形成的評価）
・個別最適な学びの中で孤立した学びに陥らないよう、また協働的な学びの中で
個が埋没しないよう、こども一人ひとりに適した発問やフィードバックなどで支援
・効果的、具体的なフィードバックで理解度の把握と学習意欲の喚起

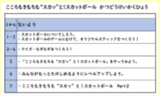
終末

ふり返りの質と内容の充実

・学習のまとめやふり返りを自分の言葉で書かせる
・学びの理解度（学習内容と学び方）を選択「できた◎」「わかった〇」「もう少し△」で自己評価
・適用題、フィードバックを次時や家庭学習、学びの活用へ
・単元（題材）の終わりに、こども一人ひとりが単元（題材）で育成する資質・能力を
身に付けることができたか把握（総括的評価）

自閉症・情緒障害特別支援学級「自立活動」

学習内容・学び方の明確化・焦点化



実態把握をもとにした個人目標の設定

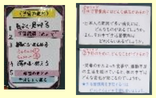
こどもたちが楽しく活動できるような環境づくり

話し合い活動が必然的に生まれるような授業展開

活動の様子を撮影した動画を見てふり返り

第６学年「体育科（保健）」

アンケートより自分事として捉え、課題を設定



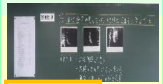
クラウドの活用

学びの選択肢と自己決定 具体物・二次元コード等

白紙共有・他者参照で協働的な学び

ICT（スプレッドシート）を活用したふり返り

第９学年「理科」


学習の見通しを可視化

ミッションで何を学ぶか

視覚支援で学びを共有

学びの環境づくり 個のつまずきに応じた学びの選択肢

９年間の系統を意識した単元の設計

アウトプットの充実 ICTを活用した結果・考察の整理

４・６・９年生による学年を超えた学びチャレンジ

褒める・認める（PBS）

・ポジティブ行動支援
・目指すこども像、望ましい行動を全体で共有
・具体的・即時性を重視したフィードバックと肯定的な評価
・望ましい行動や学習成果の可視化
・「確かな見通し」と「丁寧な見取り」

学習規律・環境づくり

・学ぶ目的と意欲付けを行い、学習規律の徹底
・学びの環境、整理整頓の習慣化
・板書・掲示の活用
・単元計画の提示、視覚化
・前向きに自発的に行動できる環境づくり

こども主体の学び（教師はファシリテート「深い教材研究・個の見取り・個への支援」）～一人ひとりが自分らしく、すべての場面でいのちを輝かせる児童・生徒＆教職員～

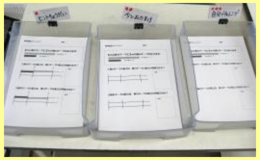
呉市立三坂地小学校

研究主題　主体的に学び，心豊かにたくましく生きる児童の育成
～個を大切にした支援の工夫と豊かなかかわりを通して～

個別最適な学び

児童の実態に合わせた学び方の選択

ワークシート



学習形態

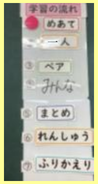
教具

ヒントカード

難易度別のワークシート，多様な学習形態，複数の教具，ICTを活用したヒントカードを準備することで，児童が自分の学び方を選択できるようにした。

「分かる・できる」ための構造化

単元計画・学習の流れの共有



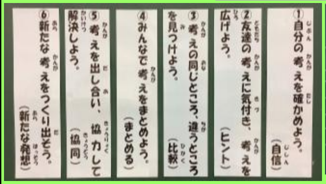
目的に応じた場の設定

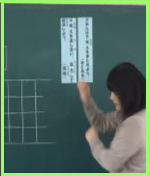
板書とノートの一体化

授業の単元計画や学習の流れを共有することで見通しをもたせた。また，一人一人の理解を促すために，学習の場を設定したり構造的な板書を示したりした。

協働的な学び

ペア・グループ活動





ペアやグループ活動をする際，「話合いの視点」を児童に提示することで，話し合う目的を共有して話合いを行った。

付箋・ICTの活用

学級の実態に合わせて付箋やICTを活用し，話合いが深まるように工夫した。

組織的な研修

学習指導案研修通信

・学習指導案には，児童の実態に合わせた授業UDの視点による手立てを記述した。
・学習指導案の手立てと授業参観シートを連動させて，児童の学ぶ姿を見取り，協議会で活用した。
・協議会の内容は研修通信で発信・共有した。

「あつまれ！UDの森」 研修

シェアタイム・サポートタイム

森プロ　15:00～15:30（30分）

チームでつなぐ　20分
①シェアタイム（ミニ公開授業）の成果，改善点の共有
＋
②次の授業者の教材研究，サポートタイム

みんなでつなぐ　8分
③各チームの取組の共有

参観者からのコメント

取組の蓄積

授業UDマップ

視覚化や焦点化など，6つの授業UDの視点ごとにグループに分かれてミニ公開授業を行い，その後30分のミニ研修を実施した。グループごとのシェアタイムでは，ミニ公開授業の成果と改善点を共有したのち，サポートタイムで次の授業者の教材研究を行った。また，職員室に設置した「UDの木」に，参観者からの授業へのコメントを掲示し，加えてスプレッドシートに取組の蓄積をすることで，全教職員で実践を共有し，活用することができた。それらの実践を踏まえ，授業UDマップとしてまとめ，整理した。

東広島市立八本松小学校

【研究主題】
「特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学びの推進」
―ユニバーサルデザインの視点を踏まえた算数科の授業づくりを通して―

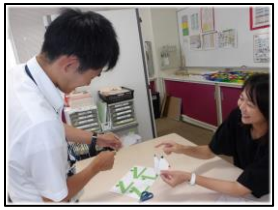
抽出児童のアセスメント → 組織的な教材研究 → ユニバーサルデザインの視点を踏まえた算数科の授業づくり

八小アセスメントシート

（日付）　年　月　日　（児童氏名）　（記入者）

P できる・自立していること	活用する・発展する ①動物を題材として設定する。 ②ゲーム性のある課題設定をする。日常的に、自由に作図ができるコーナーを設ける。
I 興味のあること ①動物 ②ゲーム性のある活動、塗り絵	
E 芽生え：部分的にできること もう少しでできること	そのまま課題にする or 支援を考える
F できない・難しい部分 →その背景 ③気が散りやすい。 →作業に関係のない周囲の情報も目に入り、意識がそれる。 ④複合図形の問題になると、解決の見通しがもてない。 →頭の中で図形を分解したり、組み合わせたりすることが難しい。 ⑤繰り上がりや繰り下がりが難しい。 →数に対するイメージがもてていない。	支援を考える ③角度だけに着目できるよう、目盛りをなくした三角定規を用意する。 ④実物の操作を通して、図形の重なりに気付かせる。 ⑤お金を使うことで、位ごとの数字が表す意味をイメージしやすくする。繰り下がりのイメージをもちやすくする。

八小アセスメントシートを使用して児童の実態を把握し、必要な教育的支援を「ユニバーサルデザインの視点」から検討

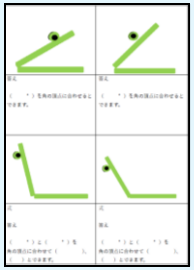


特別支援教育コーディネーターと相談しながら教具作成

多面的なアセスメントを基盤とした授業設計

UD　個別最適　UDL

①



意欲を高める課題設定（角の大きさをワニの口の開きに）

②

興味のあることを生かした単元計画や算数コーナー

主体的に授業に参加できる

⑤

課題解決の仕方の選択（具体物・図・動画）

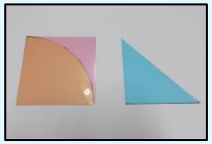
自分に合った学び方を選択できる

深い理解

③

角度だけに着目できるよう、角度に色を付け、目盛りをなくした三角定規

④



操作しながら図形の重なりを実感できる、透明な図形シート

自分の考えをもつことができる

協働

自分の考えをもつための他者参照

考えを広げるためのグループトーク

関わりを通して考えを再構築する

「個」の支援が学級全体へ波及し、「質の高い学び」へ

アセスメントによる児童理解を基盤に、ユニバーサルデザインの視点から教師が授業環境を整え（UD）、児童が学びの過程を設計する（UDL）ことで、全ての児童が参加し、理解を深める授業へ。

廿日市市立四季が丘小学校

研究主題
協働し，主体的に学ぶ児童の育成
～学びに向かう姿勢を育む算数科の授業づくり～

Assessment(実態把握)

・個別の指導計画
・アセスメントシート

得意なことや強みを生かす

Plan(計画)

・わくわくする単元設定
・既習事項の活用

子どもの姿を通して　評価・改善

・複数教員による協議
抽出児童について，現象，要因，背景などをもとに，強みを生かした支援を考える
・焦点化，構造化

・全教職員で教材研究
・育てたい力，教科固有の知を結ぶ展開，発問，教材・教具の開発

前時の学びを想起させる既習事項の掲示

子どもたちに大人気のゲームをヒントに

	学習内容
1	マルクラフトスタート！～ガタガタ車をレスキューしよう～
2	アイテムゲット！～神わざアイテムの使い方をマスターしよう～
3	円の半径を明らかにして，いろんなけしきを作ろう
4	みんなが乗れるかんらん車をさがせ！～円の半径と直径～
5	円でお城のかべのデザインをしよう
6	お宝に近いのはどっちだ！？～コンパスを使って長さをはかろう～
7	食りょうゲット！ますはおにぎり！具はどこだ！～まん丸について調べよう！～
8	マルクラフトかんせいひろう会！～学習のまとめ～

・単元計画を提示し，見通しをもたせる
・学習指導案を１時間ごとにブラッシュアップ

安心して学べる　学習環境

子どもも　　先生も

WAKU☆WAKU

UDを土台とした**自己選択・自己決定**

Action(改善)

・改善計画の立案

球は，どこから見ても円に見えるよ！

この形，よく見たら円に見えない？

かげは何の形に見えるかな？

授業チェックシート，スプレッドシートを使った研究協議

話しやすくなる課題や環境を意図的に設定

具体物を操作し，納得するまで確かめる

動画の視聴により，視覚的に理解を促す

学習コーナーを通して，自然に協働が生まれる
→主体的な学びへ

個別最適な学び　自己選択

全校児童
チャレンジ継続！

感覚を育てるタングラム

Check(評価)

・次時につながる振り返りをもとにした評価
・授業チェックシートを使った研究協議

①「見方・考え方」を働かせ，単元を通して深く思考する
②特別支援教育の考え方を生かした授業づくり
③自分の考えをもち，論理的に表現する
④次時につながる，見通しのある振り返り
⑤自己選択・自己決定のできる場の設定

具体的に褒めて　価値付ける

Do(実施)

・自己選択・自己決定
・協働的な学びの場の設定

府中町立府中緑ヶ丘中学校の取組

【研究主題】 「志」をもち、自ら学習に取り組もうとする生徒の育成
～探究的な学習における新たな問いを持つ授業展開の工夫～

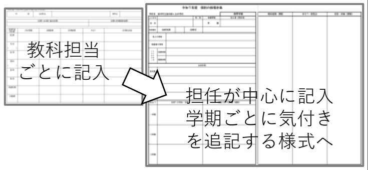
【特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学び推進プロジェクトテーマ】
実態把握をしっかり行い、全ての生徒の学びを保障する授業づくり　～ＵＤ（ユニバーサルデザイン）の視点を生かして～

生徒の実態把握のプロセス

Assessment（実態把握） ⇒ Plan（計画） ⇒ Do（実施） ⇒ Check（評価） ⇒ Action（改善）

生徒の情報共有
・研修（年５回）
・実態把握 ・支援ファイルの整理

手立ての計画（支援ファイル活用）
・様式を変更（学期ごとに整理）
・合理的配慮 ・巡回相談の活用



手立ての実施
・授業のUD化 ・学びの選択

手立ての検証
・生徒のつまずきの整理
・学年間交流→指導計画に記録

手立ての検証結果の共有
・保護者と支援方法の確認（学期ごと）
・教員間での意識統一
・合理的配慮の精選

合理的配慮の細やかな確認と見直し

全ての生徒の学びを保障する授業づくり（ユニバーサルデザインの視点）

授業のＵＤ（研究構想の実践上の視点を生かした）

「わかる・できる」のある授業づくり
・みどりの学びサイクルの活用

めあて → 知識・技能の習得 → 思考・活用 → まとめ・振り返り

㋯とおしが持てるめあてを設定する
㋣のように解決できるかかわり合う
㋷かいできたことを振り返り新たな問いを持つ

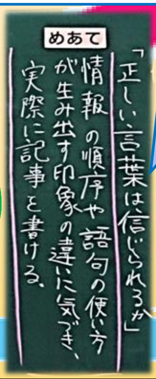
焦点化・視覚化・共有化

◎焦点化(シンプル)
→指導内容を絞る
◎視覚化(ビジュアル)
→学習内容をイメージしやすくする
◎共有化(シェア)
→学習者間で、学びを確認・拡散する

共有化（考えの整理）

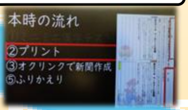
焦点化・視覚化

授業を通して子どもに
「できるようになってほしい行動」
を明確にしためあての設定



「～を書く」「～を説明する」など
行動をことばに、評価項目とリンク
「～が分かる」「～を理解する」
といった抽象的な言葉 ×

時間の構造化



活動の構造化

場の構造化

身体性の活用（動作化）

授業のユニバーサルデザイン

参考：授業のユニバーサルデザイン研究会・桂聖・石塚謙二・廣瀬由美子（2014）：『授業のユニバーサルデザイン Vol.７ 授業のユニバーサルデザインとインクルーシブ教育 道徳授業のユニバーサルデザイン』東洋館出版社
引用：広島県立教育センターホームページ　特別支援教育の部屋「授業のユニバーサルデザイン」
https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/616054.pdf

教室環境のＵＤ（生徒指導の実践上の視点を生かした）

「わかる・できる」のある授業づくり
・指示の工夫（見本の写真で視覚支援）
・生徒自身が学びに向かう姿勢をつくる

人的環境のＵＤ（生徒指導の実践上の視点を生かした）

「わかる・できる」のある授業づくり
・ソーシャルスキルトレーニング（SST）を生かした人間関係の形成
・ポジティブ行動支援（PBS）に基づく学級経営・授業づくり

緑中三訓
時を守り
場を清め
礼を正す

尾道市立向島中学校

研究主題　**主体的な学びの実現**

～一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を取り入れた授業改善を通して～

▽実態把握・アセスメント
各学年で生徒を抽出

気になる生徒への関わり方・支援	
生徒氏名	
好きなこと	
得意なこと	
診断等	
様子	
つまずき	・ ・
つまずきへの支援	・

第1・3学年は授業内容につまずいている生徒、第2学年は学力が高く退屈している生徒を抽出

各授業での生徒の実態やつまずきの情報共有

チームで各生徒の特徴や困難さを把握・分析

手立て・支援の検討

☆生徒と教員の変容
(生徒)
　学習活動にICTを効果的に組み込んだり、生徒が学習方法を選択し、自分で考えるための手段や場面を用意したりすることで、生徒が主体的かつ粘り強く授業に取り組む姿が多く見られた。
(教員)
　特別支援教育の考え方を生かした授業改善に取り組む中で、自由進度学習やスプレッドシートを活用した他者参照の導入など、教員集団の授業づくりに対する意識の変容が見られた。

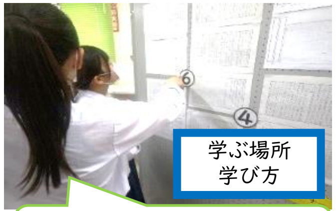
▽「教育のUD（ユニバーサルデザイン）の考え」を踏まえた授業改善
すべての子どもにとってわかりやすい授業への取組

授業のUD
- 焦点化…授業のねらいや活動を精選、発問を絞り込む。
- 視覚化…ポイントを板書や掲示で示す。ICTの活用。
- 共有化…ペアや少人数での意見交換の活動を取り入れる。

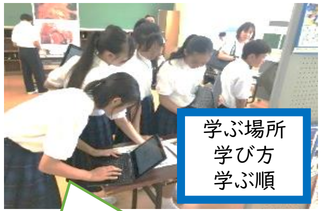
教室環境のUD
- 場の構造化
- 刺激量の調整
- ルールの明確化
- 時間の構造化

人的環境のUD
- お互いを認め合う心地よい学級づくり
- 良いところを見つけて、認め合う
(ポジティブな行動支援)

▽「多様な学びの選択肢」を取り入れた授業改善
学ぶ場所・学び方・学ぶ量・学ぶ順・他者参照等の工夫



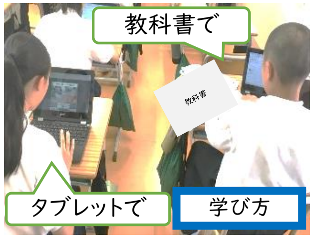
書き始めがわからないからお手本を参照



学習コーナーで資料集め

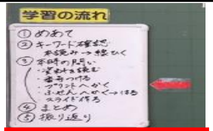
＋

複数のヒントカードを参照

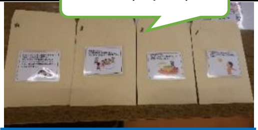


◇1時間の授業実践の様子

第1学年 保健体育科（保健分野）一斉授業

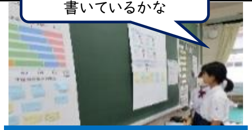


時間の構造化



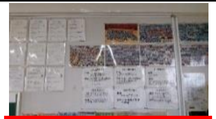
学び方の選択

学ぶ順の選択



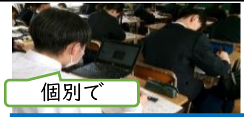
付箋による他者参照

第2学年 社会科 一斉授業



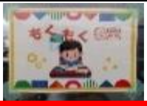
学級づくり

視覚化

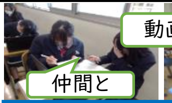


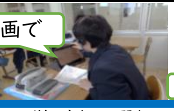
学び方の選択

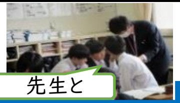
第3学年 数学科 自由進度学習



場の構造化







学び方の選択

学ぶ内容、学ぶ量の選択

神石高原町立三和中学校

研究主題「自ら学ぶ(意欲のある)生徒の育成」
～安心して学べる学習環境づくりと個別最適な学びを通して～

目指す授業
☆教室にいる全員に学びがある
☆授業に参加すると何かしらの楽しさがある
☆自分のペースで進める学習と、グループでの課題解決の融合

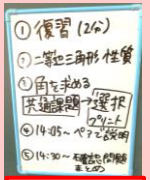
具体的な取組
取組① ポジティブ行動支援の考え方を生かした授業づくり
ターゲット、インプット、アウトプット、フィードバック、チェックを明確にした授業
取組② 三中good action
望ましい行動を生徒と共有し、価値づけることで強化する

ターゲット

○「まとめ」から「本時の目標」を考える
○焦点化した目標の設定
○具体的な行動で目標設定する
○「三中good action」を設定

第2学年 数学科の実践

二等辺三角形の性質を使って角度を求めることができる。



本時の三中 good action

挑戦しよう① 苦手なこと、難しいこと、失敗したことも、時間いっぱい取り組む。

本時の流れの提示

インプット

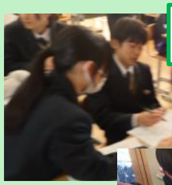
○インプットは短く
○本時の流れの提示
○行動カードによる視覚的指示
○視覚的な課題の提示
（口頭以外の方法を取り入れる）
○課題やヒントの選択肢を提供
○他者参照

問題の難易度の選択

整理の方法の選択 図→性質、性質→図

アウトプット

○アウトプットは長く
○方法の選択肢を提供
○キーワード(ヒント)の提示
○友だちの考え(他者参照)から考え、自分の言葉で説明する



ヒントカードで考える

自分の言葉で説明する

フィードバック

○望ましい行動に対して即時に反応を返す
○修正のフィードバックより肯定的フィードバックを意図的に増やす
○フィードバックに回れるように教師が前で説明する時間を減らす（積極的な机間指導）

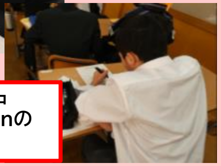
徹底した個の見取り

肯定的フィードバック

チェック

○本時の目標に対する自分の考えを「まとめ」に記入(全員のアウトプットの機会の保障)
○振り返りの視点の共有(もっと知りたいこと・調べたいこと・疑問・生活との関連・自己調整)から選択
○チェックの方法を明確にする(確認問題・文章化・作品など)
○「三中good action」の振り返り

チェック問題



本時の三中 good actionの振り返り

Ver.1 教師が作成

こんな行動ができるといいよね。

＜ 三中 good action ＞

	「あたりまえ」を大切にしよう	挑戦しよう	仲間とともに伸びよう
授業中	①人の話を聞くときは、静かに、最後まで聞く。 ②指示された活動にすばやく取りかかる。	①苦手なこと、難しいこと、失敗したことも、時間いっぱい取り組む。 ②自分の考えを伝わる声の大きさで表現する。	①「分からない人」は、「分からない」「困っている」の意思表示をする。 ②「分かった人」は、相手が分かるように説明する。 ③ペア・グループ活動の時は、意見を言ったり、友だちの意見を聴いたり、深めたりする。 ④仲間のよいところをまねしたり、取り入れたりする。
休憩中	①使ったところをきれいにする。（消しゴムのカス・シャーペンの芯・紙くず など） ②次の授業の準備をする。 ③1分前に着席する。30秒前に黙想をする。 ④昼休憩は、5分前には活動を終える。	①前回の、授業の学習内容を振り返る。 ②疑問や質問があったら先生に聞きに行く。	①他の生徒のことを考え、静かに落ち着いて過ごす。 ②みんなが「あたりまえを大切にできる」声をかけ合える。
学年活動（給食・掃除・係活動）	①責任をもって自分の役割をやりきる。 ②すばやく活動を始める。（給食準備…4校時終了後すぐに準備）（掃除…1分前に集合する） ③好き嫌いせず食べる。	①自分で気づいて行動する。 ②みんなのために、誰かのために行動する。	①困っている人に気づき、手伝う。 ②役割分担を明確にして、みんなで係活動を行う。
たて割り活動（部活動・委員会活動）	①開始と終わりの時間を守る。 ②気持ちのよいあいさつをする。（いつでも、誰にでもする。） ③場に応じた言葉遣いで話す。発言する。	①目標を立てて活動を始める。 ②活動の振り返りをする。	①仲間のがんばりを応援する声かけをする。 ②指示や声かけがあったら反応する。

生徒会の声から見直し

今は先生たちが決めたものだから、自分たちが考えたものにすれば、さらに意識を強くもって取り組める。

＜三中 good action Ver.2＞

	「あたりまえ」を大切にしよう	挑戦しよう	仲間とともに伸びよう
授業中	①人の話を聞くときは、静かに、最後まで聞いて反応する。 ②指示された活動にすばやく取りかかる。	①どんなことも、時間いっぱい取り組む。 ②自分の考えを伝わる声の大きさで表現する。	①「分からない人」は、「分からない」「困っている」の意思表示をする。「分かった人」は、相手が分かるように説明する。 ②ペア・グループ活動の時は、聴き合いをし、自分のものにする。
授業以外	①時間に余裕をもって次の準備や行動をする。 ②責任をもって自分の役割をやりきる。 ③あいさつや言葉遣いなどのルールやマナーを守る。	①家庭学習ででた疑問や質問があったら先生に聞きに行く。 ②自分で気づいて、誰かのために行動する。	①仲間の良さやがんばりを認め合い、できていない面も思いやりをもった声かけができる。

Ver.2 生徒と作成

「適切に声かけができる」は分かりにくいから、「思いやりをもった声かけができる」がいいんじゃない？

土台は、ポジティブ行動支援の考え方【できていないこと】ではなく【できていること】に着目する！

庄原市立東小学校

研究主題

学ぶ意義を感じ、主体的に学ぶ児童の育成
～個別最適な学びの実現に向けて～

本質的な問いによる授業改善

単元構想シート

単元名：「特別支援学校の児童さんへ敷き詰め模様のプレゼントを作ろう」
直線の交わり方やならび方に注目して調べよう－垂直、平行と…

本質的な問い：図形の性質について学ぶ意義とは？

○学習指導要領等から重要な部分を抜粋
・直線の垂直や平行の関係について理解する。
・平行四辺形、ひし形、台形の特徴について知る。
・図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察し図形の性質…
・図形の性質をもとに既習の図形を捉え直す。

○働かせたい（獲得させたい）数学的な見方・考え方
・辺の位置関係（垂直・平行）や構成要素（辺・頂点・角・対角線）に着目して構成の…四角形（平行四辺形・ひし形・台形）の性質を見いだす。また、その性質を基に既習…形・長方形）を捉え直し、統合的にみる。

⇨そこから導かれる本質的な問い

単元を貫く問い：四角形を構成する要素は何か。

個別の問い
①どのようなときに垂直といえるのだろう。（事実）
②どのようなときに平行といえるのだろう。（事実）
③台形とは、どのような四角形なのだろう。（事実）
④平行四辺形とは、どのような四角形なのだろう。（事実）
⑤平行四辺形には、どのような特徴があるのだろう。長方形と同じところはどこだろう…
⑥ひし形には、どのような特徴があるのだろう。正方形と同じところはどこだろう。[…
⑦これまでに学習した四角形にはどんな特徴があるのだろう。【概念】
⑧台形、平行四辺形、ひし形は敷き詰めると、どのような模様ができるのだろう。≪議…

単元計画

時間	学習活動
1①	単元のゴールを設定し、単元全体の見通しをもつ。 ２直線が交わってできる角について着目し、垂直の意味とその弁別について理解する。
2②	２直線の並び方に着目し、平行の意味とその弁別について理解する。
3②	平行な２直線に交わる直線に着目し、平行な直線の性質について理解する。
4②	三角定規を使って、垂直な直線をひく。
5②	三角定規を使って、平行な直線をひく。
6①②	方眼上の直線の垂直や平行の関係を理解する。
7③④（本時）	平行な辺の組数に着目し、台形と平行四辺形の特徴を説明する。
8⑤	辺の長さや角の大きさに着目し、平行四辺形の性質について考える。
9⑤	辺の位置関係や構成要素に着目し、平行四辺形のかき方を考えてかく。
10⑥	辺の…
11⑦	対… 対…
12	学…
13⑧	ゴ…

	ゴール課題（単元を貫く問いを意識して）	解答例
	☆特別支援学校の児童さんへ敷き詰め模様のプレゼントを送ろう！	（形） ・ダイヤ ・家 ・雪の結晶 （模様） ・平行四辺形を敷き詰めた模様 ・台形を敷き詰めた模様

○ 本質的な問いに対する指導者の答え
「図形の性質について学ぶ意義とは？」
→図形を構成する要素に着目することで、図形を様々な方法（辺の長さやその位置関係、角の大きさ、対角線の性質等）で捉えたり、既習の図形を捉え直したりすることができ、数学的な見方・考え方を広げることができる。
→図形の美しさに気づいたり、図形についての見方や感…

児童に身に付けさせたい力を明確にし、本質的な問い・単元を貫く問い・個別の問いを考える。

個別の問いをもとに、単元の流れを考える。

単元を貫く問いから、児童の実態を踏まえ単元ゴールを設定する。

単元計画を児童と共有し、児童が学習の見通しをもてるようにする。

単元計画

直線の交わり方やならび方

学習計画

	学習計画
1	単元の見通し。垂直な直線の交わり方のとくちょうを調べる。
2	平行な直線のとくちょうなどを調べる。
3	
4	垂直な直線のひき方を理解して、ひく。
5	平行な直線のひき方を理解して、ひく。
6	方眼を使って、垂直・平行な直線を見つけたりひいたりする。
7	四角形の仲間分けをする。
8	平行四辺形の　とくちょうを調べる。
9	平行四辺形の　かき方を考えてかく。
10	ひし形のとくちょうを調べたり、かいたりする。
11	四角形の対角線のとくちょうを　調べる。
12	たしかめよう
13	単元ゴール：　台形、平行四辺形、ひし形をしきつめよう。
14	テスト

⇒ 垂直（すいちょく）　平行
⇒ 台形　平行四辺形　ひし形
⇒ 対角線

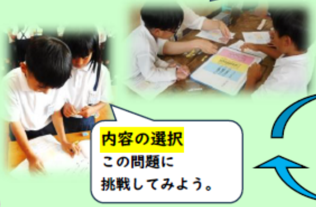
【単元ゴール】　しきつめもようのプレゼントを作ろう！（特別支援学校のみなさんへ）

個別最適な学びの場の設定

○ 自己選択の場の設定

○学び方方法や内容の選択
・ツール（具体物、図、タブレット等）
・形態（一人で、友達と、先生と）
・補充問題、活用問題、レポート

○個に応じた支援
環境設定



方法の選択
数字カードを動かすと
筆算のやり方がよくわかるよ。

内容の選択
この問題に
挑戦してみよう。

「前は〇〇をして～だった
から、今回は…してみよう」
「よく分からないから、
〇〇を使ってみよう」

算数コーナー（授業外の場面）

（パターンブロックで）
魚の形を作ろう。

（お金の模型で）
９９９０円を作ろう。

振り返りの場の設定

○ 振り返りの場の設定

○視点を明確にした振り返り
・獲得した教科の見方・
考え方に関わる振り返り
・次時・他の学習・生活に
つなぐ振り返り
・自己調整の振り返り

ふり返りの視点

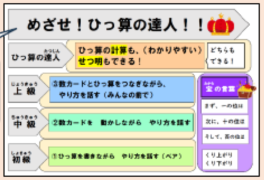
①今日したこと、分かったこと。
（〇〇について、図・ことば・式を用いて分かりやすく説明しよう）
②これまで学習したことの中で、使えたこと。
③よいと思った考え方。なぜよいと思ったか。
④身の回りで生かせそうな場面は。
⑤今日の自分の選択（せんたく）は、どうだったか。
⑥今日の自分に身に付いた力は。

協働的な学びの場の充実

○ 個の学びを生かした協働的な学習の充実

一緒に考えよう。

何回も説明し合って、
友達からシールを
もらうよ。



お互いにカード
を引いて図形の
説明をしよう。

児童の待ちの時間を
つくらないように

「友達の考えと比べてみたい」
「自分にはない考えでおもしろいな」
「自分の見方が広がったな」

「もっとよい方法を見つけたい」
「生活の中で見つけてみたい」
「他にも挑戦したい」

ストーリー性のある単元づくり

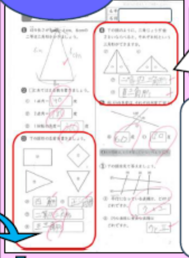
アセスメントシート

	つまずき、待ちの原因	目指す姿	授業外や授業での手立て
学力に課題のある児童	**既習内容の理解** ・図形の定義と用語がつながって理解できていない。 **図形の概念** ・直線の位置関係や四角形の構成をとらえるのが難しい。	・直線の平行や垂直の関係や平行四辺形やひし形、台形の特徴について定義や性質とつなげて理解する。	・算数教具の使用(ジオボードや模型など) ・着目点に色を塗り、直線の位置関係をとらえる。 ・垂直・平行を動作化して定着させる。 ・既習内容や算数用語の掲示をする。
	解決（表現）方法 ・定規や分度器ではかる技能が十分身に付いていない。	・用具を適切に用いて平行や垂直を見つけることができる。	・直感ではなく根拠をもって説明させる場の設定をする。
	学びに向かう姿勢 ・自分で解決できそうだという見通しがもてると、進んで取り組むことができる。	・既習内容を振り返りながら問題を解決する。 ・わからない問題があったとき、教師や友達と一緒に問題を解決する。	・ヒントカードを用意し、解決までの見通しをもたせる。 ・問題を早く解くことができた児童と一緒に問題を解くことができるように声掛けをする。
	学びの選択 ・自分に合った学習方法が確立できていない。	・自分の理解に合わせた学習方法を選択することができる。	・困った時にどうするかの選択肢（聞く、教科書を見る、動画を見る、など）の設定をする。
学力が高い児童	【学びの選択】 ・友達の選択に流されることがある。	・自分の学びを振り返り、次の自分の学びに生かそうとする。	・自分の学びに合わせた学びの選択ができるよう声掛けをする。 ・日々の授業で自分の得意・苦手を振り返る時間を取り、自己分析→自己調整の習慣を身に付けさせる。

特別支援教育の考え方を生かした実態把握と個への支援の充実

事前研

○ レディネステストをもとに実態把握



（誤答より）
図形の定義と名称が一致していないようだから…。
（正答より）
直角のイメージはあるようだから…。

〇〇さん
算数単元末テスト　平均49点（思考判断のみ　36点）
・定規や分度器の１ｍｍや１°が読みづらい。
・用具を適切に使うことが苦手。
・「ＡだからＢ。」という筋道立てた思考が難しい。
・１つずつの処理をゆっくりこなすことで精いっぱい。
・語彙の少なさ、言語獲得の難しさ。
・読解の難しさ。（語のまとまりとして読むこと）
・書く・描くことの難しさ。
・分かりたい、できるようになりたいという意欲は高い。

○ 模擬授業を通して検討

実際に児童役に
なってみると
こんな誤答をしそう
だな。

タブレット活用を考えたけど、児童には操作が難しそう。数カードやお金の模型の方がいいかも。

児童の実態に応じた学習活動の工夫・個への支援について検討